

視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

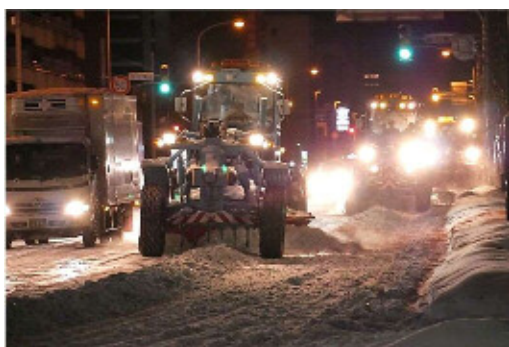
除排雪作業を工夫しながら限られた人員・体制においても、これまでの除雪水準の維持を目指します。

(1) 効果的な除排雪の推進

① 幹線道路の除排雪

取組内容

- 除雪水準の確保に向け、気象予報や道路状況などを的確に捉え、計画的に除排雪を行います。**継続** (表 5-1、図 5-1)
- 朝の通勤・通学時に間に合わせる（明け方の降雪は除く）ため、夜間作業を基本とします。**継続**
- 明け方のまとまった降雪などにより、すべての道路の除雪を通勤・通学間に合わせる事が困難な場合は、気象予報及びバス路線や交通量などの道路特性²³を勘案したうえで、あらかじめ優先的に対応する路線を定め、計画的に作業を行います。**拡充**
- バスの円滑な運行の確保に向け、市内のバス路線（国道を除く）の交通量・バス便数・道路幅員などを勘案したうえで排雪の強化や、新雪除雪と拡幅除雪の連続作業を進めます。**拡充** (図 5-2)
- バスの運休情報を速やかに把握するなど、バス事業者との連絡体制を強化します。**拡充**
- 交差点付近の交通渋滞緩和に向け、幹線道路と幹線道路の交差点の排雪を強化します。**継続**
- 見通しを改善して自動車と歩行者の双方の安全を確保するため、幹線道路と生活道路の交差点の排雪を強化します。**拡充**
- 国道管理者と連携し、作業の効率化を図ります。**継続**



幹線道路の除雪



幹線道路の排雪

²³ 【道路特性】 各々の道路が持つ幅員や交通量、機能、役割などのこと。

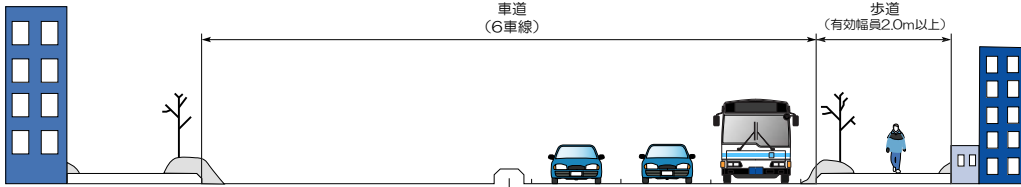
表 5-1 幹線道路(車道)の除雪水準

種別	道路の機能	目安となる形態	圧雪厚	幅員確保基準	
主要幹線道路	・都市間や都市内の主要拠点を連結	6車線	3cm 以内 (ワダチができない程度)	4車線以上 (概ね13m)	右左折車が 気にならない程度
幹線道路	・都市内の各地区や主要施設間の交通を集約 ・日常生活圏(住区)の外郭を形成	4車線	5cm 以内 (ワダチができない程度)	3車線以上 (概ね9m)	右折車が 気にならない程度
補助幹線道路	・住区内交通を集約し、主要幹線・幹線へ誘導 ・生活道路から幹線系道路へ接続 ・住区内の主要施設へのアクセス	2車線	25cm 以内 (走行に支障のない程度)	1.5車線以上 (概ね4m)	小型車との すれ違いができる程度

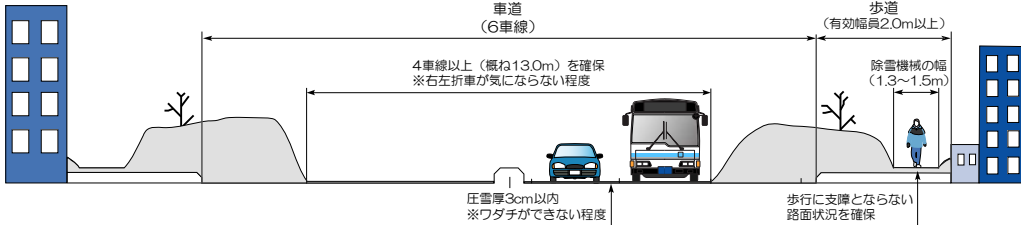
※除雪水準は、目標とする確保すべき「圧雪厚」と「幅員」などを示したものです。(但し、大雪時は除く)

・主要幹線道路

【初冬期や初春期など】



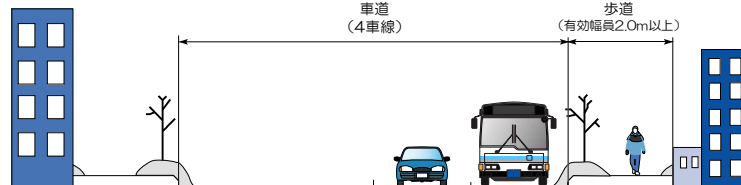
【厳冬期など】



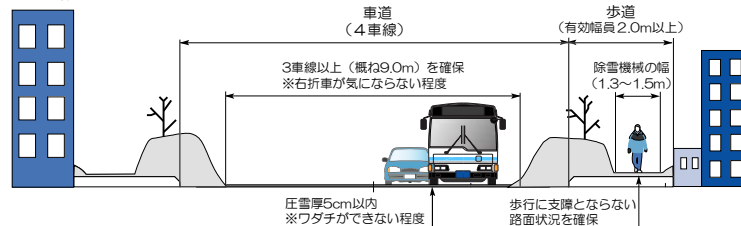
【「主要幹線道路」除雪水準のイメージ】

・幹線道路

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】



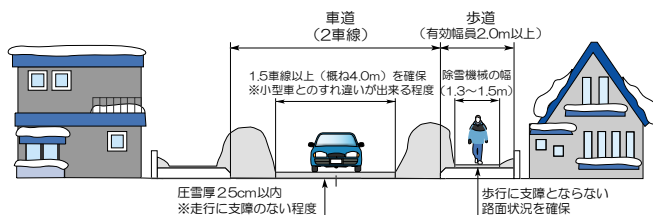
【「幹線道路」除雪水準のイメージ】

・補助幹線道路

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】



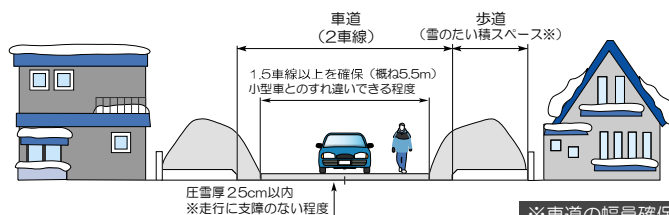
※歩道の確保を優先

【「補助幹線道路(歩道除雪を行う場合)」除雪水準のイメージ】

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】



※車道の幅員確保を優先 (歩道は雪の堆積スペース)

【「補助幹線道路(歩道除雪を行わない場合)」除雪水準のイメージ】

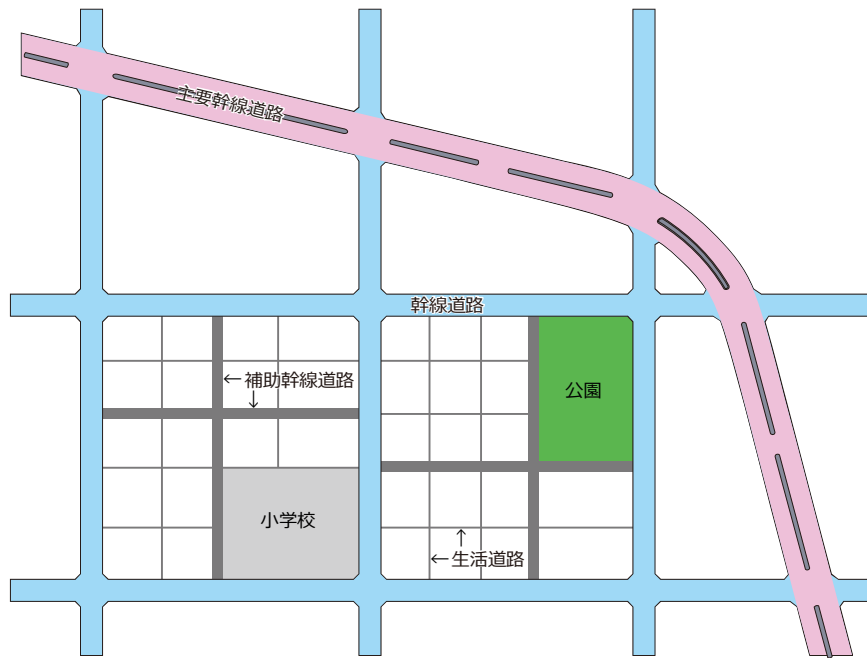
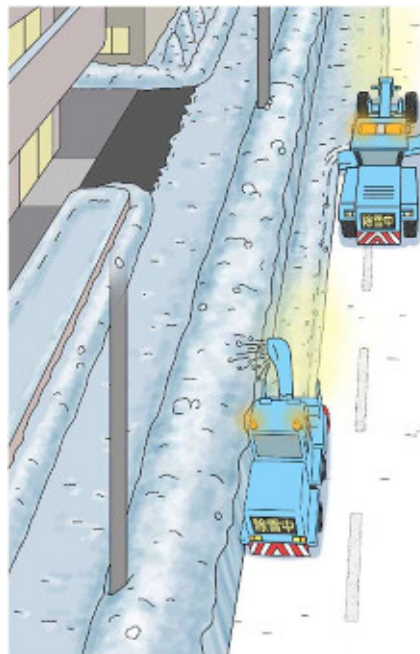


図 5-1 道路種別の概念図



〔 除雪機械で道路脇に寄せた雪をただちに積み上げて、車道幅員を確保 〕

図 5-2 新雪除雪と拡幅除雪の連続作業イメージ